

学生リーダー会 アンケート用紙

大学生の皆様こんにちは。学生リーダー会です。

現在私達は文部科学省主催の合同フォーラム「みんなでつくろう明日の人材」の中で行う学生企画「大学生が抱く理想の学び～大学が変わる 学生も変わる～」を企画中です。

つきましては、アンケート回答のお願いがあります。本アンケートは、皆様の率直な思いを我々学生リーダー会が吸収し、その意見を活かして、大学の改善に繋がる企画をするために行っています。何卒ご協力のほどよろしくお願い致します。

1. 皆様が大学に期待していた(している)ところと、期待外れなところを率直にお答えください。

①授業について

②教授や講師について

③就活のサポートについて(キャリアセンター・教務課など)

④大学のシステムについて(単位に関する制度など)

2. 皆様が納得できる大学生活を送るためには、日々の大学生活をどのように改善すればいいと思うかをお書きください。

①大学生活への取り組み方の改善(授業態度・授業の選び方など)

②私生活の改善(ボランティア活動への参加など)

ご協力ありがとうございました！

平成 25 年度学生リーダー会の活動を終えて

芦屋大学 臨床教育学部 教育学科 2 回生 山本 拓馬

今回のリーダー会に参加さしてもらって本当によかったと思いました。まさか僕がリーダーに選ばれるとは思いませんでした。皆が僕の想いが届いてよかったです。最初はリーダーをどうしたら良いのかわからず一人で俺ができる仕事を頑張ると必死でやっていたけど全然できていなくて皆に迷惑ばかりかけていたけれど最後の方は皆が手伝ってくれてとても助かりました。僕の悪い所は一人で何もかもすることです。一人でろくにできないのに自分一人でやることです。けどその時に「お前一人でリーダー会をしてるか？」と言われてきずきました。僕一人でかつてに変な方向に進んで皆を困惑させていました。そうじゃなくて一緒に手伝ってもらえるように自分はならなければと思いました。僕はリーダーとか代表者とかやっとなんかなくて途中もリーダー失格なのに皆が僕を支えてくれたおかげでリーダー会も成功しました。本当ならば途中でリーダーを降ろされていてもおかしくはないのに皆それぞれ不満があるのに誰一人でも言ってきませんでした。皆がまだ僕をリーダーとして支えてくれていると思った時は本当に涙がでて皆にありがとうと思いました。このリーダーで学んだことはいっぱいあります。自分でも初めの六月とは違ってちよっとは成長できたと思っています。何より皆に本当に出会えてよかったです！これからはもっともっと自分を成長させたいし、このリーダー会が後輩にもしてもらいいろんな人に教えてほしいと思います。

兵庫県立大学 工学部 機械システム工学科 宮坂大樹

文部科学省が主催する合同フォーラムに関するプロジェクトと事前に伺ったので、堅いイメージもあり参加することに少し億劫になったが、今までの知識や経験をチームに役立てること、またそうすることが自分自身の成長の場になればとの思いでリーダー会に加わった。私情もありフォーラム当日に参加することは叶わなかったが、それまでの会議や外部の社会人の方との打ち合わせを行うなど、発表の方向性や内容をより優れたものに修正していくプロセスを経験できたことは、今後の学生生活および社会人として仕事をしていく上で、大いに役立つものであると思う。

また、意見を出し合う場において、他大学の学生と交流が深まったのも良い点である。活動を通じて、普段接点のない、異なる分野を専攻する学生の考えを聞くことは、また違った視点からの主張であることも多く、会議に参加する一つの楽しみであった。

今回の活動で得られた知識・経験をこれからの生活に生かしていきたいと思う。

和歌山大学観光学部 2 年 近藤真紀

本企画に参加するにいたる経緯は、学内のキャリアセンターの先生からの紹介でそれまではこの

ようなフォーラムがあること自体知りませんでした。14大学の代表が集まり週末にほぼ丸一日会議する、当初これはなかなか大変なものになると不安の方が大きかったです。まずテーマ、企画内容は自由で学生が自由に考えていいとのことだったのですが、これが逆に私たちにとって難しいものでした。目標や到達点が漠然としたまま内容を進めていったりして、いざ原点に戻ろうというときに色々なことがわからなくなりました。夏休みの間私情で1か月ほど会議に参加できなかった間に他のメンバーが7つのテーマを絞りこんでくれてそこから本格的な企画内容へ進んでいったように思います。14大学の学生へのアンケートは実際に生の学生の声を聞けるということで非常に良い試みだったと思います。各班に分かれて進めていくときにタスク管理というものは非常に重要なものだと実感しました。いざ決めてもその中でトラブルが発生したりしてタスク通りにいかないこともあります。その時は各班の間でのコミュニケーションや連絡体制が重要となります。これらは社会に出てプロジェクトなどを進めるときに大事なものになると思います。現にフォーラム後すぐに半年間のインターンシップを開始し、インターンシップ先の社長に見せられたものがタスク表でした。学生リーダー会に参加していなかったら知らなかったことで少し良い経験をさせていただきました。本番では産官学と様々な方面からのご意見をお聞きすることができ、なおかつ学生の主張もしっかりということができ偏りの少ない企画内容だったように思います。今回参加したメンバーは個性豊かで学部もバラバラで交流ができ良かったともいます。又、コーディネーターとして私たちのサポートをしてくださった難波さんには大変感謝しております。本当にありがとうございました。

帝塚山学院大学 人間科学部 情報メディア学科 2年 中谷 信哉

参加して良かったです。最初に考えていたよりも多くのものを得ることが出来たからです。新しい友達が出来たのは勿論のこと、他大学の猛者達が集うリーダー会の中で自分の立ち位置を確立出来たのは大きな収穫でした。

リーダー会が始まった当初、正直やる気が無かったです。リーダー会の趣旨を何も知らずに参加した結果、「文部科学省」とか「産業界のニーズ」とか「社会を変える」とか、僕にとってはまったくもって興味が無い分野の活動であると感じたからです。もちろん周りの学生の大半は、そういった趣旨を知った上で参加した人ばかりだったので、彼等の言葉からひしひしと伝わってくる意識の高さにも面食らいましたし、尊敬もしました。

そんな中、モチベーションが上がらない僕は、適当に参加して、適当に話を聞いて、適当に受け応えて、とにかく適当に会議に参加していたのですが、適当に選んだ企画班に配属されてからは少し意識が変わりました。メンバーが面白かったからです。頭が良く(当時は)空回り気味な企画班リーダーに、体育会系なまとめ役に、気になったことはどんな空気でも聞ける確認の鬼にと、バラバラな個性が一つのチームとして企画を作っていくということに魅力を感じたのです。そして、社会への意識の高さを持つ彼等の中で、そんなことに全く興味が無く企画の形や面白さを追求する僕のような人材が居ることも面白いと感じ

ていました。

面白いと感じてからは、極力会議に参加するようにしました。参加率の高さから、色々な仕事を任されるようにもなりました。充実していました。充実しすぎて、現実での遊びやバイトが削られて多少困ることもありました。しかし、僕の性格上、何かを任されれば任されるほど燃えますし、1の期待をされたら1.2くらいの結果を残したい気持ちもありますので、それをたくさんさせてくれるリーダー会は確実に僕の能力や容量を成長させてくれたと思います。皆が僕を頼ってくれたことには本当に感謝しています。

そして何より、本気になってからのリーダー会の活動は楽しかったです。皆の色々な話を聞けましたし、団結して動けたように思います。中でも、フォーラム当日は最高に楽しかったです。今まで突っ走った分、転んだ分の集大成がこんなにも楽しいものであるとは思いませんでした。自分の発表を全力でやり切ったこと以上に、仲間の発表が今までで一番良いものであったことに素晴らしく楽しさを覚えたことは本当に印象的でした。楽しくて緊張することを忘れたくらいです。

このような楽しさを味あわせてくれる活動になら、また参加したいと思います。ただ、今年度は僕なりに頑張った結果、満足もありましたので、来年度のリーダー会にガッツリ参加するということは無いと考えています。むしろ、来年度のリーダー会にしか出せないような色で企画を作ってくれることを凄く楽しみにしています。僕達の前の年の企画と僕達の企画は全く違ったものであったと聞いています。この2年の歩みを経て、集大成となる3年目に一体どのような企画を作り上げてくれるのか。少し妄想するだけでワクワクが止まりません。リーダー会のような学生にとっての実りと楽しさの両方を兼ね備えたような活動がこれからもどんどん増えて行くといいですね。

神戸学院大学経営学部2回生 六田 えり

私自身が何か大学生活の中で私は学生リーダー会の活動にあまり参加できませんでしたが、それでもたくさんのお話を学ばせていただきました。全員で一つのことをやり遂げることの達成感、就職活動に向けての高い意識が得られたのではないかと思います。全員が同じ意識を持って臨むことが発表の成功につながり、本番までの道のりは大変なこともたくさんあって試行錯誤の繰り返しだったと思いますが、少しでもこの活動への参加が意味を持ちこの先に生きる経験となったと思います。

そして産業界で求められる人材について考えることで就職に向けてより高い意識が持てたと思います。大学で私達は多くのことを学び、人として成長しなければなりません。そうすることで得られる社会に求められる能力やスキル、経験がこの先生きていくと思うし、また本当に社会に必要とされる人材に近づくとと思います。そのために私達は学生として学びに対し積極的な姿勢で取り組み、そして社会に実践的に生かせる理想の大学教育の在り方に関して深く考えるきっかけとなりました。私自身も今まで以上に高い意識を持ち大学生活を送りたいと思います。

大阪成蹊大学 マネジメント学部 2年 越智ゆりか

私は、学生リーダー会に参加して良かったです。

6月に、初めて学生リーダー会に参加する人達と顔合わせをして、学生リーダー会では、「産業界のニーズに対応した人材育成」というテーマに沿った企画を作成し、発表をする。」と聞きました。初対面同士で、どう会話をしたらいいかもわからない状態でちゃんとできるのか不安に思いました。しかし、時間が過ぎるのは早く、事業の説明、自己紹介等が終わるとリーダーとサブリーダー、学生管理を決める時間になりました。私は、みんなの前に出て行動するのは苦手で、学生リーダー会のメンバーをサポートする学生管理に立候補しました。ですが、結果は落選で、とても落ち込みました。でも、私が「リーダーやサブリーダーがする仕事に興味がある」と発言したことを聞いてくれた人がサブリーダーを進めてくれて、「苦手なこともしないとイケないけど頑張ってみよう」と決意し、サブリーダーになりました。

最初の頃は、議事録を作成したり、会議中にリーダーのサポートをしたりなどが中心でとても大変とは思いませんでした。ゴールの分科会までにも時間があり、全体的に余裕があったからだと思います。

ところが、企画を具体化することになり、企画班、パネル班、広報班、会場設営班に分かれて活動することになってからは大変でした。

私は、広報班に入りました。自分が広報の仕事をしたくて入りましたが、いろいろと問題がありました。会議を開いてもメンバーが集まらないことや、苦手な人前に出て会議(話)を進めていくこと、連絡がつかないメンバーがいる等です。「辞めたい」と思うことも少しありました。しかし、広報班の活動が本格的に始まるまでに全員ではありませんが、ちゃんと来てくれるメンバーが増えました。すごく嬉しかったです。

その後は、企画が完成するのが、年を超えてしまったりして、広報班のポスター作成がなかなか始められず、予定していたスケジュールを何度もずらしたりして、企画をなかなか確定してくれない企画班に対して不満が出たりもしました。ですが、争いごとになったりはしなかったので安心でした。

企画が決まってからはものすごい速さで様々なことが決まっていき、本番までの時間がすぐでした。広報班で割り振った仕事が終わった人は他の仕事を手伝ったりと、班にとらわれずに自らが出来ること、得意なことで企画を成功させられるように活動していくことができました。私も、台本作成等をしました。他にも、パネルディスカッションのパネリストとして登壇していただく社会人の方に挨拶に行ったりもして、友達とも先生とも違う方への対応(話し方やメールの送り方等)を学ぶ機会もありました。

そして、3月10日に本番を迎えました。私は時間が押してしまったこともあってパネリストとして話をすることができませんでしたが、本番までに行ってきた活動を振り返るとこれまで頑張ってきてよかったと思える本番でした。

私は、学生リーダー会に参加することで人に頼ることの大切さを知りました。実際、人に頼るのは大事だと思っていましたが、実行できていたわけではありません。自分でやったほうが安心だからです。でも、人を頼る（仕事を割り振る）ことをしないと自分自身に余裕がなくなってしまうと思うように進めなくなってしまうことがあると実体験してみ分かりました。

それに、相手に伝わりやすい話し方をすることも学べました。これはまだ、学んでいけないといけないことで、どうしたらいいと明確な答えを自分で見つけられていません。ですが、この話し方は、何かの活動をするにあたり絶対に必要になることなので身につけていけるように普段の会話から気をつけて話していこうと思います。

この学生リーダー会で学べたことは他にもあります。学んだと気づいていることもあります。さすが、きっと自分がまだ気づいてないことも実は学んでいるのではないかと思うほどに多くのことを学んだと思うのです。

私は、学生リーダー会に参加して良かったです。

大阪音楽大学音楽学部音楽学科声楽専攻 2年次 三谷晴佳

私は、学生リーダー会に参加して、様々なものを得ることができました。

まずは、どのようにして1つの企画を作り上げていくのかということ学びました。

私は音楽大学に通っており、普段は企画を行う機会があまりないため、今回のようにみんなアイデアを出し合い企画を作っていくことはとても貴重な経験でした。

普段学んでいる音楽とは、一見関係のないことのようにですが、今回学生リーダー会で行ったように、明確なテーマを作り、そこに向けて企画をし、それを実施していくということは、自分が演奏活動を行う際にも生かせるのではないかと思います。

そして何より様々な大学の学生たちと活動できたことが、今回得たものの中で自分にとって1番大きなものです。

単科大学であるために、他大学の学生が普段どのような授業を受けたり、どのような活動をしているのかということや、他大学の同世代の学生の考え方を知る機会が少なく、今回それらを知ることができて、とても勉強になりました。

また、たくさんの学生と話をすることで、自分が当たり前と思っている、音楽大学の生活や音楽業界のことが一般的にはあまり知られていないのだと気づきました。

今後音楽を、社会の中で有益に使えるようにしていくためには、まず私が音楽大学で学んだ知識などを周りに広めていくことが大切だと思いました。

そして芸術を産業や教育に生かせるようにしていきたいと思います。

芦屋大学 経営教育学部 経営教育学科 二回生 的場智弘

私は、最初先輩の紹介でリーダー会がどういうものなのかもよく分からないままに応募をして、参加をしました。

参加した理由も特に大きな理由もなく、先輩がとてもいい活動だから絶対参加した方がいい、絶対為になることばかりだからという言葉信じて参加してみようかなあといういい加減なものでした。

最初の活動で私は、折角これだけの大学が集まったのだしみんなと仲良くなりたいと思い、きっかけ作りができればと思って学生管理を立候補しました。

10月ぐらいまでの会議は、連絡もつかなかったり返信がなかったり、何も言わずやめていく人がいてなどで私が頑張っても空回りばかり。すごく辛かったことを覚えています。

12月頃からは、会議内容が充実してきたおかげなのか連絡がつかないといった人はほとんど居ない状態となり、返信もすぐに返してくれる人が多くなりました。何だか学生管理やってよかったあと思いました。

1月から本番まで、とんでもなく忙しい日々でした。そんな中で学生管理というポジションは、影のような存在であるので私の頑張っている姿が見えにくく、誰も気づいていないだろうと思ってました。けれど、そうではなかったです。

同じ学生管理をしていた人、同じ大学の人が見守ってくれて、お疲れ様と言われるだけで充分嬉しかったのに、まさかのリーダー会のみんながこんな私のことを褒めてくれたり、お疲れ様の一言があったりしたのです。しんどいはずなのに、自然ともしっかり頑張ろうと思うようになってました。

こんな風に思えたことは、これから先忘れることのできない宝物です。このリーダー会で私は、どんなに見えにくい努力であっても、報われそうにないことがあったとしても、続けていけば必ず意味のあるものになることをリーダー会を通じて学びました。

そして、私がリーダー会でお仕事を頑張っていると私だけではなく、他のメンバーも全力で努力して仕事をしていることに気づくことができました。

その努力を褒められると私はすごく嬉しかったので、私も同じように気がつけば、褒めたりお疲れ様の一声をかけていました。

意味分からない発言かもしれないけれど、それを言っている私も幸せな気持ちになれたような気がしました。

- 1.努力とは、続けていけば必ず意味のあるものになる。
- 2.努力とは、続けていけば自分だけではなく仲間の努力にだって気づくことができる。
- 3.努力とは、しんどくてやめたくなる時でも仲間から褒められたり、仲間からの一声で喜びになり、しんどい気持ちや、やめたい気持ちがどこかへいつてしまっています（笑）

そして気がつけば努力してる（笑）

リーダー会で知ることのできたこの3つをこれから先も忘れることなく大切にしていきたいと思います。

何となく始めたリーダー会も今では、大好きなリーダー会と胸をはって言えるようになりました。

ありがとうございました。

大手前大学 総合文化学部 3年 木本早紀

リーダー会が発足時は、同じ大学の子も居ないし初対面の人ばかりですし、会議の後はすぐにバイトに行かないといけなくて仲良くなるきっかけがつかめずにいました。仲良くないと会議中に意見を言いにくいのが現状でした。きっと私以外にもその様に感じていた子が居たかと思います。リーダー会は、もっと会議の前に仲良くなる事に力を入れていれば、もっと多い人数で取り組めたのではないかと反省しています。自分が馴染むことに精一杯になるのではなく、雰囲気をよくすること、意見をみんなが言いやすく、リーダー会に参加したくなる土台を作ることに取り組みたかったという気持ちは終わってみて感じています。

でも、せっかくリーダー会に参加したのだから！という気持ちで出来るだけ距離が離れていけない様にと意見を出したりしました。その後企画班に所属し、今まで企画を実施するのにこれほどの時間をかけたことはないくらい議論に議論を積み重ねました。「もうこのくらいにしとこう」という雰囲気が流れることがなかったのもそれぞれの思いがあったからだと思っています。会議が煮詰まった時に、場を和ませる人が居たり軌道修正する人が居たり、それぞれの個性や能力を発揮してくれたので、テーマまでいきつくことができたと思えました。

本番直前は、みんなの頑張っている姿を見て、みんながこんなに頑張っているんだから！みんなの為に、みんなが頑張ったことを成功させる為にという気持ちで取り組みました。

大阪成蹊大学 マネジメント学部 2年 河野裕子

今回私は、この学生リーダー会という活動に参加して、たくさんものを得て、また、たくさんことを知ったと思います。10か月という言葉だけ聞けば長くも感じますが、実際はとても短くて一瞬にして過ぎた活動期間でした。

この活動に参加した当初、私は何事にも不満を持っていて、いつもどこか後ろ向きな考えを持っていました。思い描いていた大学生活と今の生活とのギャップに戸惑いを感じたり、一年後の就職活動への不安があったりしたからです。そんな中で参加したこの活動は、まさに人生のターニングポイントとも言える出来事でした。様々な種類の学部や、年齢、性別の違うメンバーとの会話は、いつも何かしらの発見があり、自分では気が付かなかった自分の理念や理想を知る切っ掛けにもなりました。活動の後半では問題が山積みになり、予定の組み方の甘さや情報共有の大切さを身をもって知りました。今思うとこの活動は「一難去ってまた一難」という言葉がよく似合う気がします。本番を終えた今では良い思い出と言えますが、本当に色々なことがあった日々でした。この活動を通じて、少しは成長できたのかなと思います。成功したこと、失敗したこと、頑張ったことなど、自分の中では様々な思いがありますが、全てが全て、「負ではない！」のではないかと思います。どん

な経験でも栄養にして、未来の自分への成長に繋げていける強さと前向きさを、私はこの活動で一番強く学んだのだと思います。私は今、これからの学校生活がとても楽しみです。やりたいことが少しずつ見えてきたことで、前向きに物事を考えることが出来るようになりました。リーダー会最高です。また、何かの機会があればこうした活動にも積極的に参加したいと思います。

ありがとうございました。

関西外国語大学、国際言語学部、2年、佐藤由加里

今、振り返ると約9ヶ月という時間はとても短く感じます。私はこのフォーラムに参加しようか参加しないか本当は迷っていました。関西外国語大学の中でも頭の悪い私が、国公立の大学が入っている中で通用しないのではないのか、役に立たなくて足を引っ張ってしまうだけではないのか、というような不安がたくさんありました。しかし、行ってみんな優しく話しかけてきてくれて、みんなでご飯を食べに行ったりしている中でみんなが好きになり、人前で意見や発表などができなかった私はいつの間にかみんなの前では少しずつ意見や質問など言えるようになってきました。もちろん、緊張しないわけではありませんが、それでも意見などが言える自分に少しびっくりもしました。11月ごろ、大学の授業で質問の時間がありました。その時、質問内容もできていたので質問しようと思いました。しかし、まだ手を挙げて質問することができませんでした。やはり、大人数の前になると発表できない自分に情けなくなりました。やっぱりいつまで経っても私は発表することができないんだなぁと思っていました。しかし、今回のこのフォーラムのための会議を通して、自分の意見を言ったり質問したりする時間が多く、とても勉強になりました。そして、合同フォーラム当日…失敗したらどうしよう…セリフを忘れてしまったらどうしよう…かんでしまったらどうしよう…などで実際とてもびびっていました。しかし、みんなが大丈夫、出来るから、失敗してもいいから、と声をかけてくれてとても心強く、みんなと一緒にいるから大丈夫という気持ちになれました。本番、私は結局かんでしまった上にも言うことも忘れて台本を持ってはいたものの混乱しすぎてどこを発表してるのかもわからずもう無茶苦茶に話しました。そんな私に対して、みんなよく頑張ったね！ちゃんと出来たやん！と褒めてくれました。私は全然ダメでした。しかし、大勢の前で発表できたことは少しではありますが、自信につながりました。なので、この経験を生かして、次こそはちゃんと大学の授業での発表を頑張りたいと思います。そして、みんなで最初の企画からやることなんてなかなかないのでとても良い経験ができたと思っています。確かに、何回も集まって企画を進めて行く中で、とてもしんどいなあ～議事録もしないといけないし、アンケート収集もしないといけないし、と思ったことはありました。このような苦い思い出も含め、今ではとても大切な宝物だと思います。学生リーダー会に入れて本当によかったです。学生リーダー会最高！！本当にありがとうございました。

芦屋大学 臨床教育学部 2年生 大谷佑太

一言言うとやっと終わりました。6月から始まり1期メンバーの岡田先輩に誘われ、リーダーの山本、学生管理の的場と共に駆け抜けました。最初はこのリーダー会メンバーで本番を迎えられるのか？と不安でたくさんでしたけど次第に皆さんが一丸となって協力し、自分の中での大きな成長となりました。リーダーを支えること、会議・みんなのムードメーカーになることの二点がとても勉強になりました。自分のリーダー会での目標が「佑太がいないと会議ができない、面白くない、佑太がいないとリーダー会じゃない」と言われるぐらいの存在感のある人物が目標でした。結果、全くでした。もっと自分で色んな事ができたと思いますし、もっと大谷佑太の力を発揮できたと思います。本番では20%も力を発揮できてません。正直、周りの心配をしすぎて自分の事を疎かになっていたからです。悔しくてたまりませんでした。この、リーダー会を次へのステップだと思っています。だから、反省点をしっかり自覚して、改善し何事にも通用する大人になりたいです。

悪いところばかりではなくいいところもたくさんあると思うので、岡田先輩、リーダーなどに聞いていいところは伸ばして行きたいです！

和歌山大学経済学部 経済学部 市場環境学科 3回生 平 彩乃

1. 学生企画について

企画内容が確定するまでに時間が掛かり、そこから当日までの準備期間が非常に短かったことを考えれば、当日は非常に良い形で終わったと思います。機材の不具合などによりタイムスケジュール通りに進まなかったりしたことも含めてです。

本企画に関し今回私は全くのノータッチではありましたが、本企画のメンバーひとりひとりが熱心に取り組んでいる様子が見受けられました。いわゆる「主体性」というものの表れであり、関西14大学の代表でもある本企画のメンバーがそれを示してくれたことは非常に喜ばしいことだと感じました。

2. 個人としての学び

私自身フォーラムには2回目の参加であり、また2回生が中心となっていた学生リーダー会の中の数少ない3回生でもあったことから、中心となって活動することは控えようと当初から考えていました。単に席を譲ったということではなく、代わりに別の立場に挑戦してみようと考えていたからです。

というわけで今回は、会議の際の「橋渡し役」になるよう心掛けていました。具体的に言えば、「発言者の発言内容やその主旨を確実に把握しようと努め、それを必ず発言者に確認する」という行動を意識してとりました。

取り組みの結果得たことは以下の3点でした。

1. 以上の取り組みは社会人基礎力で言う「傾聴力」や「発信力」の獲得に繋がると予測できること。
2. やってみれば意外とできた。

3. 「学ぶ」とはどういうことであるのか、それに関する自分なりの実感。

3.について少し補足すると、『「意識して」取り組む』ということは自らの行動姿勢や意欲に大きく影響が出ることを学んだ、ということです。「自分は何に取り組もうとするのか」「そこから何を学ぼうと考えているのか」を意識し行動するだけで、私は自分の成長をはっきりと認識することができました。

別段意識しなくても、人間何かに取り組めばそこから学んで成長はするものだとは経験上思います。が、しかしそこに「意識する」ことを加えるだけで自分の成長を「認識」することができる、ということを知りました。

明確な目的意識の元に行動し、そこから課題・改善策を見つけ再度行動に戻る、よくいうPDCA サイクルの一部を、今回で初めて自分の中で実感することができ、またそれが「学ぶ」ということであると判断しました。

周囲から見れば小さな実感ですが、それが私自身の中では非常に大きな学びでした。

芦屋大学 臨床教育学部 国際コミュニケーション教育科 3 回生 岡田 健汰

私は第 1 期目から参加させて頂いておりますが、今回は内容もメンバーも全く異なるものでした。前回と違って今回のメンバーは比較的優しくて、どちらかと言うと消極的な人が多いのかなと最初は思っていました。会議でも意見のぶつかり合いや衝突をすることもなく、すらすらと進んでいきました。

私は 2 期目ということもあり、自分が主体的になり過ぎずに後ろからメンバーを支えていこうと決めていました。ですがあまりにも穏やかとか特に議論もなく進んでいくことが多々あったので、少しだけ意見を言うようにしました。するとメンバー全体が少しずつ積極的に言葉を発するようになり、充実した会議になっていきました。それからは意見がぶつかったり、小さな喧嘩もありましたが、今回のメンバーの長所の「相手の意見に耳を傾ける」ところを活かして順調に進んでいきました。

本番の前日に各自発表、司会、プレゼンテーションの練習などを見ていて練習量が時間の関係で少なく、メンバー全員が不安な気持ちになっていたことを覚えています。ですがそのような状況でも時間を言い訳にするのではなく、

「誰かが詰まったら助け合っていこう！」という姿勢を 1 人ひとりが持っていました。

そして本番当日、限られた時間の中で何度も入念にチェックを行い発表が始まりました。私はその時誘導の役割に当たっていたのでステージの端で見えていましたが、自分が話す時より緊張していました。発表を応援しながら見ている際に「1 人ひとりの個性が上手く表現出来ている」と感じました。

最後はステージの前に全員並んで挨拶をし、無事に終わることが出来ました。

挨拶をしている時は正直泣いてしまう程嬉しい気持ちでいっぱいでした。

私は今回の活動を踏まえて「人が出来ないことを支えていく大切さ」を学びました。本当に今回のメンバーは全員素直で「出来ないことは意地を張らず出来ない！」と言える人

ばかりだったからこそ、スムーズに支え合うことが出来たと感じています。

私は来年から社会人です。社会に出てから今まで以上にわからないことや大きな壁にぶつかると思います。そんな時に支えてくれるのは上司だったり同僚だったり、「自分の周りにいる仲間」だと思います。

そのような方に素直に助けを求め、共に成長していけるような人間関係を築き上げていこうと考えております。

学生リーダー会では参加させて頂く度に新たな経験を積ませてもらっています。

改めて感謝させていただきます。これからさらに「人間力」を高めていけるよう日々精進していきます。

本当にありがとうございました。

帝塚山学院大学 人間科学部 情報メディア学科 二年 平山 裕樹

やっと終わったなという感じだ。1月後半から本番にかけて毎週のようにあった会議が無くなり、久々に訪れた暇をどう消化すればよいのか分からず、結局もてあます日々が続く。それほどまでに充実していたのだと思う。

リーダー会での活動は、自分の力や適所を改めて理解するきっかけとなった。やはり裏方で支援に徹するのが向いているように思ったし、役に立てているという実感があった。目立たない役どころなので、あまり周囲から評価されないことが少し淋しくはあったが、それだけに自分のことを見ていてくれた方がいたこと、そして褒めていただいたことは嬉しかった。

また、他大学のメンバーとの交友を深められたことは、人づきあいが苦手な自分にとって大きな収穫であった。自分や自分の提案が受け入れてもらえたことが嬉しく、活動への意欲を向上させた。

本番終了後、他のメンバーとの会話の中で、同じ大学のメンバーが「自分たち三人が大学に爪痕を残す」などと語りだし、いつの間にか巻き込まれていた。それが決して大言壮語等ではなく、実現可能だと信じることは、この活動を通して成長し、自分に自信が持てたからだ。今後もインターンシップやゼミ等で自らの力を発揮し、よりよい自分になっていきたい。

今の自分なら、なんだってやれる。

以上です。

摂南大学 2年生 青池美帆

わたしは、学生リーダー会のメンバーになったものの、話し合いに一度も出席することなく、当日を迎えました。

当日の皆さんの顔は楽しそうな半面、とても緊張した面持ちでした。

舞台に出る前に、外で何度も練習打ち合わせを繰り返す姿を見ていて、皆で今まで長い

間一生懸命、一から作り上げてきたものを成功させたいという思いが、熱く感じられました。実際に学生リーダー会の発表舞台を見て、自分と同じような学生が発表していると思えない出来で、学生でもここまで出来るものなのかと強く思いました。

一度の参加ですが、学生リーダー会としての集大成を見届けることが出来て良かったと思っていますし、もう少し参加して自分もここにに関わりたかったなあととても後悔しました。

本番当日に初めて参加したにも関わらず、皆さんとても優しく接して下さいとても感謝しています。ありがとうございました。